

Neve 1073 Preamp & EQ コレクション

これまでに作られた中でもっとも親しまれたプリアンプ&イコライザー

Neve 1073 コンソールチャンネル・モジュールは、今までに設計されたなかでもっとも親しまれたプリアンプと EQ 回路と考えられ、もっとも多くのクローンやコピーが作られています。Rupert Neve の 1073 は、これまでに作られた音楽制作機材の最高傑作リストのトップに挙げられます。このクラス A、トランジスタ・マイク/ライン・プリアンプと EQ は、世界中のエンジニアや、プロデューサーの心を惹きつける“Neve エッセンス”を集約しています。

1970 年代に導入された 1073 は、Wessex の A88 や 8014 などの Neve コンソールで見られ、20 世紀後半から今日まで膨大な数のレコーディングに使用されてきました。Neve 1073 Preamp and EQ コレクションは、他のユニットではほぼ実現不可能な紛れもない透明度と艶を提供する UAD-2 や Apollo インターフェイス用のプラグインです。

Neve 1073 の回路を隅から隅までエミュレーションした唯一のプラグイン

Neve 1073 は、Apollo と UAD-2 で使用するために開発され、オリジナルハードウェアのすべての機能、回路の動作など、憧れのサウンドを提供します。デュアルステージ“Red Knob”プリアンプ、3 バンド EQ や、ポストフェーダー・アウトプットアンプなどを詳細な部分まで徹底的にモデリングし、Universal Audio の Neve 1073 プラグインでは、ありえないくらいの精度でハードウェアの経験を得ることができます。1073 のレスポンスは、“本物以上のリアルさ”を持つクリアさとパンチがあります。そしてそれにクラス A のサチュレーションによるウォームさを加えてください。ダイナミックかつ複雑で倍音豊かな Neve のトランジスタ・クリッピングによって、さらに回路をプッシュすることができます。

Neve 1073 スクリーンショット



Neve 1073 プラグイン・ウィンドウ



Neve 1073 Legacy プラグイン・ウィンドウ



Neve 1073SE Legacy プラグイン・ウィンドウ

Neve 1073 プラグイン

上図に示すように Neve 1073 Preamp and EQ コレクションは3の異なるプラグインで構成されています。コントロールはほとんど同じですが、各プラグインには独自の機能と利点があります。

Neve 1073

Neve 1073 は、オリジナルの P&G アウトプットアッテネーション・フェーダーを含む、オリジナルの Neve 8014 コンソールから取り出したビンテージの“ゴールデンユニット”チャンネルモジュールを元になっています。

UA による Neve 1073 は、唯一クラス A プリアンプ、EQ 回路などを隅から隅まで忠実なモデリングを提供しています。Marinar インプット・トランスから始め、1073 をとても入念にモデリングしています。(そして Apollo の Unison テクノロジーで使用可能な物理的なインピーダンスがリアルにスイッチ可能)トランス・ステージは、Neve のデュアルトランジスタ・プリアンプ(別名“Red Knob”)や、特徴的な非対称なダイナミックデューティーサイクル・クリッピングなどのクリッピングする場合としない場合のノンリニアリティのキャラクターを忠実にモデリングしています。

3 バンドアクティブ・イコライザーのフィルター相互作用と内部アンプのクリッピング動作、パッシブローカット・フィルターとプリアンプ・アウトプットの EQ の動作も同時にモデリングしています。プラグインは、1073 のポストフェーダー・アウトプットアンプ、アウトプット・トランスやその他多くのノンリニアリティのキャラクターと、合計で 10 箇所のサーキットのクリッピング・エリアもキャプチャーしています。

Neve 1073 Legacy

物理的な増幅や回路の非線形性が不要な場合、1073 Legacy EQ の 3 バンド EQ とパッシングカット・フィルターは正確な非線形性とフィルター・インタラクションを完璧にモデリングしています。

Neve 1073 Legacy は EQ の非線形性や入出力ステージのモデリングも行わないので、新しい Neve 1073 プラグインよりも UAD DSP の消費率を節約することができます。クリーンなサウンドを必要とする時に新しい Neve 1073 よりも Neve 1073 Legacy の方がよい結果が得られる場合もあります。

Neve 1073SE Legacy

Neve 1073SE Legacy は、Neve 1073 Legacy とほぼ同じですが、このプラグインは、アップサンプリングされていないため、UAD DSP の消費率を節約することができます。

Neve 1073SE Legacy のインターフェイスは、色やモジュール名によって Neve 1073 Legacy と区別することができます。1073SE は黒く、1073 はダークブルーです。そしてインターフェイス・パネルの右下にあるモジュール名に“SE”と記されます。

コントロールの違い

以下のパラメーターは、Neve 1073 だけに使用可能で、Neve 1073 Legacy と Neve 1073SE Legacy では使用できません。

- Unison Technology: Unison テクノロジー
- Mic/Line Input Select: マイク/ライン・インプットセレクト
- Mic Gain: マイク・ゲイン
- Impedance: インピーダンス
- Pad: パッド
- Level: レベル
- Output: アウトプット

Unison™ による統合



Neve 1073 は Universal Audio の Apollo オーディオ・インターフェイスのマイクプリアンプ・ハードウェアと統合した動作を行うために Unison テクノロジーを採用しています。

Unison を使用することで、Apollo の超クリアなマイクプリアンプのサウンドは、インプットキャラクターを始めとする Neve 1073 ハードウェア・プリアンプの機能とサウンドすべてを再現します。

注: Unison は、Neve 1073 が Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサート・スロットで使用されている場合にのみ有効になります。Unison に関する詳細については、Unison のマニュアルを参照してください。

リアルなタンデム・コントロール

Unison は、Apollo のデジタル・コントロールされているパネルのハードウェア、やプラグインのインターフェイスを使用して Neve 1073 プラグインの設定をシームレスにインタラクティブ・コントロールを行うことができます。すべてのプリアンプ・コントロール(ゲイン、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、ゲイン・レベル、クリッピング・ポイントを含む Neve 1073 ハードウェアの相互作用の動作を正確に再現します

ハードウェアのインプット・インピーダンス

すべての Apollo マイクプリアンプは、アナログ・ハードウェアでのインプット・インピーダンス切替え機能を備えており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的に Apollo のプリアンプがエミュレートされたユニットのインプット・インピーダンスと一致することを可能にします。それは、マイクのサウンドに大きな影響を与えることができます。電氣的な付加は A/D 変換前の入力で発生するため、リアルさはオリジナルのハードウェアに忠実に行われます。

ゲイン・ステージング

Apollo のフロントパネルのプリアンプノブは、ゲインステージ・モードを使用して Unison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベル・パラメーターを独立してコントロールすることができます。Apollo からリモートでゲインステージを切替え、コントロールすることができ、複数のゲイン・レベルとそれに関連する音色の着色は、Unison プラグインのソフトウェア・インターフェイスを使用せずに物理的なハードウェアノブを使用してコントロールすることができます。

注: Unison テクノロジーは、Neve 1073 Legacy、Neve 1073SE Legacy では使用できません。

アーティストプリセット Neve 1073 は、著名な Neve 1073 ユーザーからのアーティストプリセットを収録しています。アーティストプリセットは内部のファクトリープリセットにあり、ホストアプリケーションのプリセット・メニューからアクセスすることができます。それらは、Apollo の Console アプリケーションでも使用できるよう、UAD インストーラーと一緒にインストールされます。プリセットは、UAD ツールバーの“Settings”メニューを使用してロードすることができます。(詳細は UAD システムマニュアルの第 7 章“UAD パワードプラグインの使用法”を参照してください)

このプラグインには追加アーティストプリセットも収録されており、それらは内部のファクトリー・バンクでは使用できません。これらは、UAD ツールバーの“Settings”メニューを使用してアクセスしてください。

Neve 1073 レイテンシー

Neve 1073 と Neve 1073 Legacy プラグインは、サウンドの設計目標を達成するために内部アップサンプリングを使用しています。このアップサンプリングは、アップサンプリングを使用していないプラグインよりも少しだけ大きめのレイテンシー（プラグインとサンプルレートに応じて 0~88 サンプル）が生じます。

これらのレイテンシーは近代的なホスト DAW では自動的に補正されます。Neve 1073SE は、アップサンプリングされていないので、余分なレイテンシーが追加されません。詳細については、UAD システムマニュアルの“遅延補正”を参照してください。

Neve 1073 のコントロール

特に明記がない限り、すべてのコントロールは Neve 1073、Neve 1073 Legacy、Neve 1073SE Legacy で共通です。

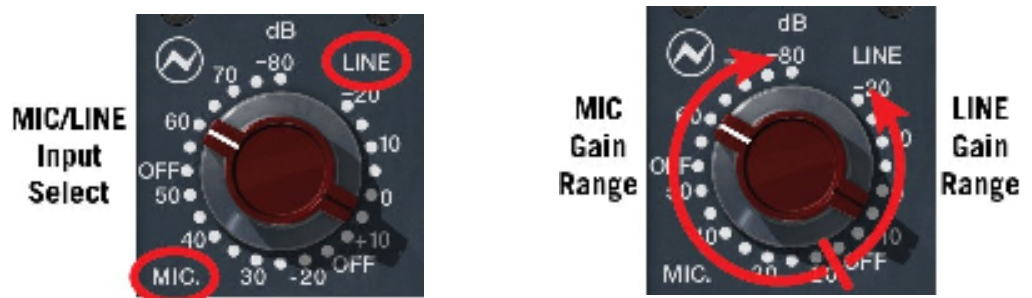
インプット・ノブ について

インプット・ノブは、インプット・ステージを完全にモデリングしていることを特徴とする Neve 1073 と、モデリングしていない Neve 1073/1073SE Legacy プラグインは異なった動作を提供します。

Neve 1073

インプット・ゲイン・コントロール（別名：“Red Knob”）は、マイクプリアンプ・インプットとライン・インプットのインプット・ゲインを調整します。ゲイン・パラメーターは、“MIC”や“LINE”テキスト・ボタンや、反対のゲイン・レンジの任意の値をクリックすることで切替えることができます。

MIC/LINE インプットを切り替えると、下図に示すようにノブの位置はインプットのゲイン・レンジに変更されます。



Neve 1073 の Mic/Line インプットセレクト・ボタンとゲイン・ノブのコントロール・レンジ

ヒント: 当初、Neve で使用されていた珍しい“ネガティブ値”のナンバリングは、ゲインの代わりに感度に基づいています。例えば、インプットが -80 dB の感度を持つ場合、1073 のインプットセンシビリティ・ノブは一致するように -80 dB に設定されます。

下図に示すようにマイク入力・ゲインとライン入力・ゲインは、2 つの別々のパラメーターです。オリジナルのハードウェアとは異なり、ノブは、他の入力・タイプに代わることなく 1 つのゲイン・パラメーターだけをコントロールするように強制されます。



Neve 1073 内のマイクとライン・パラメーターは、別々にコントロールされることを表示

Neve 1073 Legacy と Neve 1073SE Legacy

入力ゲイン・コントロールは、これらのプラグインの入力・レベルを設定します。これらのプラグインは、入力・ステージをモデリングしていないので、別々のマイク/ライン・コントロールは使用できません。

入力・セレクト 入力・セレクトは、どの入力（マイク、またはライン）をゲイン・ノブでコントロールするかを決定します。コントロールする入力・ゲインを変更するにはマイク、またはライン・と書かれたラベルをクリックしてください。

ヒント: 入力・セレクトは、入力・タイプの範囲内にある“ドット”、またはゲイン値のラベルの何方かをクリックして切り替えることもできます。

入力・セレクトが変更されるとゲイン・ノブはその入力・タイプの範囲だけを使用できるように変更されます。

ハードウェアと同じように Neve 1073 プラグインは、“バーチャル”マイク・入力を通してラインレベル・シグナルを簡単に送ることができます。そしてディストーションをクリエイティブな用途としてシグナルに加えることができます。これはマイク・レベルの入力にライン・レベルのシグナルを送ることになるので、ゲインが大幅に上昇することが予想されます。

重要: アウトプット・レベルがかなり増えることになるので、ラインからマイクに変更する際には充分にご注意ください（どのハードウェア・プリアンプでも同様です）。



Neve 1073 が Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで 사용되는場合、ソフトウェアとハードウェアのインプット・セレクトのコントロールはミラーリングされます。インプット・セレクトは、Console のマイク/ライン・インプット、プラグインのインターフェイス内、または Apollo のハードウェア・ボタン (Apollo: マイク/ライン、Apollo Twin: インプット) で変更することができます。

注: インプット・セレクトは *Legacy 1073/1073SE* では使用できません。

ライン・ゲイン

Neve 1073

ライン・ゲインは、30dB のレンジを持ち、5dB ステップで調整可能です。インプット・セレクトが“LINE”に設定されている時に調整可能です。

ノブは、オリジナルのハードウェアと同じように反時計回りに回すとゲインが上昇します。しかし…

- Unison モードで、Apollo のプリアンプのレベル・ノブを使用する場合、時計回りに回すことでゲインを増やします。
- Controls ビュー・モードでは、左から右にコントロール・スライダーを動かすことでゲインを増やします。

注: ラインのゲインがオフに設定されている場合は、*UAD DSP* の消費率は軽減されます。(UAD-2 ロードロックされている場合を除く)



Neve 1073 が Apollo の Console アプリケーションの PREAMP インサートで使われ、ライン・ゲインがオフに設定された場合、シグナルはミュートされます。これはオリジナルのハードウェアの動作と同じです。オフの位置にあっても UAD DSP 消費率は軽減されません。

Neve 1073 Legacy と Neve 1073SE Legacy



このコントロールは、プラグインのインプット・レベルをコントロールします。使用可能なゲイン・レベルは、30 dB です。このプラグインでは、インプット・ステージのモデリングを行っていないため、別々のマイク/ラインゲイン・コントロールは使用できません。

ノブがオフの位置にある場合、すべてのプラグイン・プロセッシングが無効になり、UAD DSP の消費率は軽減されます。(UAD-2 ロードロックされている場合を除く)

ヒント: ラベル“OFF”、または Neve ロゴをクリックするとインプット・ゲイン値はオフと、以前に設定されていた値を交互にスイッチします。

マイク・ゲイン

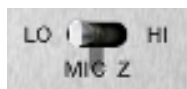
マイク・ゲインは、60dB のレンジを持ち、5dB ステップで調整可能です。マイク入力・ゲインを増やすには、ノブを時計回りに回してください。入力・セレクトでマイク・モードに設定されている場合、マイクのゲインのみを調整することができます。



Neve 1073 が Apollo の Console アプリケーションの PREAMP インサートで使用され、ライン・ゲインがオフに設定された場合、シグナルはミュートされます。これはオリジナルのハードウェアの動作と同じです。オフの位置にあっても UAD DSP 消費率は軽減されません。

注: マイク・ゲインは Legacy 1073/1073SE では使用できません。

Mic Z (インピーダンス)



マイク・入力のインピーダンスは、Mic Z スイッチで設定します。モデリングされている入力・インピーダンスは、(Unison モードで使用しない場合でも)シグナルにカラーやレスポンスに繊細な効果を与えます。

注: Mic Z は、Legacy 1073/1073SE では使用できません。

LO

LO に設定するとマイク入力・インピーダンスは、300 Ω です。

HI

HI に設定するとマイク入力・インピーダンスは、1.2K Ω です。

注: Mic Z は、ライン・入力、または Unison モードで Apollo の Hi-Z 入力を使用した場合は利用できません。このケースでは切り替えることができません。

オリジナルハードウェアを使用しているほとんどのスタジオでは、このコントロールを“HI (デフォルト)”のままにしておきます。エンジニアは(リボンマイクのような)低出力マイクを使用する際にハードウェアの設定を“LO”に変更する場合、モジュールの背面にあるコントロールを切り替えるために、コンソールの下に潜らなければならない場合があります。

Unison インピーダンス



Neve 1073 を Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで使用する場合、Apollo のマイクプリのハードウェア入力・インピーダンスは、プラグイン内で設定されている値と一致するように切り替えられます。

もっとも近いインピーダンス値をマイクに合わせるのが一般的ですが、このパラメーターをクリエイティブな用途で使うことができ、その場合に Apollo のマイクプリアンプに害を与えることはありません。

PAD



このスイッチを有効にすると、マイクインプット・レベルを、-20 dB 減衰させます。

プリアンプ・ゲインが低い時に望ましくないオーバーロード・ディストーションが起る場合に、シグナル・レベルを下げるために使用することができます。

注: PAD は、ライン・インプット、または *Unison* モードで *Apollo* の *Hi-Z* インプットを使用した場合は利用できません。このケースでは切り替えることができません。



Neve 1073 が *Apollo* の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで使用される場合、ソフトウェアとハードウェアのインプット・セレクトのコントロールはミラーリングされます。PAD は、プラグインのインターフェイス内、または *Apollo* のハードウェア上の PAD ボタンで切り替えることができます。

High Shelf - ハイシェルフ



ハイシェルフは、12kHz に固定したシェルビングタイプで、およそ ±18 dB をスムーズにイコライジングします。

ハイエンドの Neve サウンドによる艶を得るには時計回りに、トレブルのレスポンスを減らすには反時計回りにノブを回してください。

ヒント: ラベル“0”をクリックするとゼロの位置に素早く戻すことができます。このショートカットは *Neve 1073/1073SE Legacy* では使用できません。

Midrange Band ミッドレンジ



ミッドレンジは、二重の同軸ノブによってコントロールを行うスムーズなセミパラメトリック・ミッドレンジイコライゼーションを提供します。

この帯域幅のレスポンスは、ゲインの調節に対して依存します。より高い周波数値で Q も上がり、よりフォーカスを絞ったピークになります。

内側のノブは、帯域のゲインを、その側のノブは、周波数、またはオフを選択します。これら 2 つのコントロールは以下に詳述します。

Midrange Gain — ミッドゲイン・レンジ

ミッドレンジのイコライゼーション・ゲインは同軸ノブの内側でコントロールします。調整可能な範囲は ±18 dB です。

ヒント: ラベル“0”をクリックするとゼロの位置に素早く戻すことができます。このショートカットは *Neve 1073/1073SE Legacy* では使用できません。

Midrange Frequency – ミッドレンジ・フリークエンシー

ミッドレンジの周波数は同軸ノブの外側でコントロールします。コントロールは、マウスでのドラッグ、または周波数やオフを指定するためにテキストラベルを直接クリックすることができます。

ヒント: “kHz”ラベル(ノブの左下)、またはミッドレンジ・マーク(ノブの右下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

使用可能なミッドレンジの中心周波数は、360 Hz、700 Hz、1.6 kHz、3.2 kHz、4.8 kHz、7.2 kHz とオフです。オフにした場合はこの帯域は無効になります。

Low Band – ロー・バンド



低域周波数は、スムーズなシェルビングが可能な二重の同軸ノブでコントロールを行います。

内側のノブは、帯域のゲインを、その側のノブは、周波数、またはオフを選択します。これら 2 つのコントロールは以下に詳述します。

Low Gain – ロー・ゲイン

ロー・バンド用のイコライゼーション・ゲインは、内側のノブでコントロールします。使用可能な範囲は±15 dB です。

選択した周波数をブーストするには、コントロールを時計回りに、ロー・バンドのレスポンスを低減するために反時計回りにノブを回します。

ヒント: ラベル“0”をクリックするとゼロの位置に素早く戻すことができます。このショートカットは Neve 1073/1073SE Legacy では使用できません。

Low Frequency – ロー・フリークエンシー(低域)

ロー・バンド用の周波数帯は、外側のノブでコントロールします。コントロールは、マウスでのドラッグ、または周波数やオフを指定するためにテキストラベルを直接クリックすることができます。

ヒント: “Hz”ラベル(ノブの左下)、またはローシェエルフ・マーク(ノブの右下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

使用可能なロー・バンドの中心周波数は、35 Hz、60 Hz、110 Hz、220 Hz と O オフです。オフにした場合はこの帯域は無効になります。

High Pass — ハイパス



ハイパス（ローカット）・フィルターの固定周波数を指定します。このフィルターは、18dB/オクターブのスロープを持っています。

使用可能な周波数は、50 Hz、80 Hz、160 Hz、300 Hz とオフです。オフを指定した場合、ハイパス・フィルターはバイパスされます。

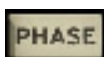
ヒント: “Hz”ラベル（ノブの左下）、またはハイパス・マーク（ノブの右下）をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。



Neve 1073 を Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで使用する場合、次のハイパス・フィルター動作が適用されます。

- **EQL** スイッチが無効になっていても、シグナルは常に回路を通っています。
- Apollo 上のハードウェア・ボタンで有効に切替えた場合、最後に設定した値が有効になります。

Phase — フェイズ

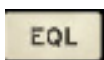


シグナルの極性を反転させます。スイッチを有効（スイッチが暗いポジション）にあるとき、フェイズは反転します。スイッチを無効（スイッチが明るいポジション）にある時、フェイズは通常のままです。



Apollo の Console アプリケーション内の PREAMP インサートで 사용되는場合、ソフトウェアとハードウェアのフェイズのコントロールはミラーリングされます。フェイズは、プラグインのインターフェイス内、または Apollo のハードウェア上のフェイズ・ボタンで切り替えることができます。

EQL



EQL スイッチがオン（スイッチが暗い位置）にある時、イコライザーは有効になります。オフ（スイッチが明るい位置）になる時はオフになります。

デフォルトでは無効になっています。切り替えるにはボタンをクリックしてください。

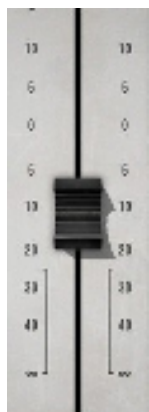
EQ がこのコントロールによってバイパスされた場合は、UAD DSP 消費率は軽減されます。（UAD-2ロードロックされている場合を除く）

ハードウェアの 1073 は EQL スイッチをオフにしてもオーディオにはわずかにカラーを与え、EQ セットアップは“フラット”になります。これはシグナルが、まだその回路を通っている事実を証明します。

特に、EQL がオフでも、(ハイパス以外の)フィルター・バンドのすべては、(Legacy 以外の)Neve 1073 のクリッピング動作に影響を与えます。したがって、EQL スイッチがオフでも EQ の値は、シグナルに重要な影響を与えることができます。

トゥルーバイパスが必要な場合は、パワースイッチをオフ(Neve 1073)にするか、ラインゲイン・コントロール(Neve 1073/1073SE Legacy)をオフにしてください。

Level – レベル



モジュールのアウトプット・ステージでのシグナル・レベルをコントロールします。オリジナルの Neve コンソール・フェーダーの回路をこのコントロールのためにモデリングしました。

使用可能な範囲は-10 dB (オフ) ~ +10 dB の間です。ユニティ・ゲインは、“0”の位置です。0dB 以上にレベルを上げるとアウトプット・アンプでクリッピングを起こす場合があります。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると 0dB の位置に素早く戻すことができます。

Output – アウトプット



シグナルのキャラクターに影響を与えることなくプラグインのシグナル・レベルを調整することができます。使用可能な範囲は、±24 dB です。

オリジナルのハードウェアには存在しないこのコントロールは、全体的なシグナルのカラーを最大化することを容易にします。例えば、ゲインとレベルはディストーションを多く得るために高い値に設定する一方で、アウトプットを下げることでレベルをノーマライズすることができます。

注: もし、オリジナルのハードウェアと Neve 1073 プラグイン(Unison モードでない場合)を比較する場合、アウトプットを +10.8 dB に設定するとソフトウェアとハードウェアのレベルが一致します。

Power – パワー



プラグインのバイパス・コントロールです。OFF に設定するとプラグインのエミュレーション処理は無効になり、UAD DSP の消費率は軽減されます。(UAD ロードロック無効時)

オリジナルのシグナルとプラグインで処理した値を比較する場合にとっても便利です。



Neve® 1073、1081、31102、88RS、33609 プロダクトや AMS-Neve のすべての商標を使用した視覚と聴覚
のリファレンスが AMS-Neve 社より書面に寄る許諾を得て行っています。